

村上勝彦教授年譜ならびに主な業績目録

1942年6月8日 東京市麴町区（現、東京都千代田区）麴町5丁目6番地の2で、父、村上敏雄，母，嘉子の次男に生まれる。1944年12月に空襲を避けて京都に移転

教育歴

- | | |
|----------|---|
| 1949年 4月 | 京都市立正親小学校入学 |
| 1950年 9月 | 東京都千代田区立麴町小学校転校（1955年3月卒業） |
| 1955年 4月 | 東京都千代田区立麴町中学校入学（1958年3月卒業） |
| 1958年 4月 | 東京都立日比谷高等学校入学（1961年3月卒業） |
| 1961年 4月 | 東京大学教養学部文科一類入学 |
| 1963年 4月 | 同上大学経済学部経済学科進学 |
| 1965年 3月 | 同上学部卒業，経済学士 |
| 1965年 4月 | 同上大学大学院経済学研究科修士課程入学（理論経済学経済史学専攻課程日本経済史専攻） |
| 1967年 3月 | 同上課程修了，経済学修士 |
| 1967年 4月 | 同上研究科博士課程進学 |
| 1973年 3月 | 同上課程単位修得退学 |

職歴

- | | |
|----------|---|
| 1974年 4月 | 東京経済大学経済学部専任講師（日本経済史担当） |
| 1978年 4月 | 同上大学経済学部助教授 |
| 1982年 4月 | 同上大学出題委員長（1984年3月まで） |
| 1984年 9月 | 中国对外経済貿易大学へ交換教員派遣（1985年7月まで） |
| 1985年 8月 | 在外研究（中国北京大学経済学院（1986年7月まで），中国復旦大学世界経済研究所（1986年8月～1987年3月）） |
| 1988年 4月 | 東京経済大学教務委員長（1990年3月まで） |
| 1989年 4月 | 同上大学経済学部教授 |
| 1991年 4月 | 同上大学大学院経済学研究科主任（1993年3月まで） |
| 1992年 5月 | 同上大学総合企画委員会委員長（1994年3月まで） |
| 1996年 4月 | 同上大学経済学部長・国際交流委員会委員長（1998年3月まで），学校法人東京経済大学理事・評議員（1998年3月まで） |

村上勝彦教授年譜ならびに主な業績目録

1996年10月	同上大学大学院コミュニケーション学研究科設置検討委員会委員長 (1997年3月まで)
1997年4月	同上大学第3次総合企画委員会委員長(1999年7月まで)
2000年4月	同上大学学長・大学院委員会議長・災害対策本部長(2008年3月まで), 同上大学創立100周年記念事業募金委員会常任委員会委員長 (2001年5月まで), 学校法人東京経済大学理事・評議員(2008年3月まで)
2008年6月	学校法人東京経済大学理事長・評議員(2011年5月まで)
2013年3月	東京経済大学定年退職
2013年6月	株式会社ニッピ社外取締役

非常勤講師

1975年4月	東京YWCA専門学校社会福祉専門課程社会福祉科(1981年3月まで)
1976年4月	東京大学大学院経済学研究科(1979年3月まで)
1978年4月	東京女子大学文理学部史学科(1984年3月まで)
1981年10月	東京大学経済学部(1982年3月まで)
1982年4月	東京女子大学大学院文学研究科史学専攻課程(1983年3月まで)
1989年10月	農林水産省農業総合研究所(年5回, 1994年7月まで)
1990年4月	津田塾大学学芸学部国際関係学科(1994年3月まで, 1995年4月～2000年3月)

非常勤研究員

1975年4月	アジア経済研究所研究委員(1978年3月まで, 1994年4月～1997年3月)
1981年4月	早稲田大学現代政治経済研究所特別研究員(1984年3月まで)
1994年4月	国立民族学博物館共同研究員(1998年3月まで)

所属学会・研究会

- 政治経済学・経済史学会(旧・土地制度史学会, 1973年10月～)
- 朝鮮史研究会(1974年1月～)
- 社会経済史学会(1974年4月～, 評議員: 1994年5月～2008年5月)
- 歴史学研究会(1974年4月～)
- 日本植民地研究会(1986年12月～)

近現代東北アジア地域史研究会（旧・中国近現代東北地域史研究会，1991年12月～，幹事（旧・世話人）：1995年10月～，幹事代表：2010年5月～）

東アジア地域研究会（1993年12月～）

環日本海学会（1994年11月～1999年3月）

中国経済学会（2002年6月～，理事：2002年6月～2008年6月）

関係団体

公益財団法人大倉文化財団（評議員：2000年11月～）

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（理事：2007年5月～2009年5月，顧問：2009年5月～）

一般社団法人日本私立大学連盟（理事：2009年3月～2011年5月）

公益財団法人私立大学退職金財団（理事：2009年4月～2012年1月）

日本私学経営活性化協会（理事：2008年9月～2010年8月）

主な業績目録

1. 著書，編書

- 1 『東京大学経済学部所蔵 都道府県統計書目録』（和書主題別目録3）同学部研究室，1965年11月，1-293ページ（編集と「あとがき」（293ページ）を執筆）
- 2 『日本産業革命の研究—確立期日本資本主義の再生産構造—』上・下，東京大学出版会，1975年10月，1-384，1-314ページ（大石嘉一郎編，大石嘉一郎・高村直助・石井寛治・西村はつ・加藤幸三郎・佐藤昌一郎・中村政則との共著，第10章「植民地」（下巻229-314ページ）を分担，分担章はハングル訳本で刊行（『植民地』チョン・ムンジョン訳，韓国ソウル・図書出版ハンウル，1984年5月，1-85ページ））
- 3 『日本帝国主義と東アジア』（研究参考資料277）アジア経済研究所，1979年3月，1-381ページ（小島麗逸編，小島麗逸・森久男・金子文夫・松岡信夫・窪田宏・国本伊代との共著，第3章「日本資本主義による朝鮮綿業の再編成」（95～180ページ）を分担）
- 4 『日本・旧満州鉄鋼業資料解題目録—水津利輔氏旧蔵資料—』上・下（統計資料シリーズNo.12, 13）一橋大学経済研究所日本経済統計文献センター，1979年3月，1980年2月，1-210，1-176ページ（石川滋監修，松田芳郎・大竹慎一・松本俊郎との共編著，上巻H「本溪湖煤鉄公司」（134-53ページ），下巻・第三部3「本溪湖煤鉄公司：水津資料と大倉資料」（160-6ページ）を分担）
- 5 『大倉財閥の研究—大倉と大陸—』近藤出版社，1982年2月，1-889ページ（大倉財閥研究会編，渡辺渡・森久男・池上和夫・窪田宏・金子文夫・奈倉文二・須田喜俊との

- 共著, 「まえがき」(i-viiページ), 第5章「本溪湖煤鉄公司と大倉財閥」(419-704ページ), 「大倉財閥関係年表」(873-89)を分担)
- 6 『日本帝国主義史1—第一次大戦期—』東京大学出版会, 1985年1月, 1-454ページ(大石嘉一郎編, 大石嘉一郎・橋本寿朗・伊藤正直・石井寛治・高村直助・武田晴人・清水洋二・金子文夫との共著, 第5章「資本蓄積(2) 重工業」(199-242ページ)を分担)
- 7 『近代日中関係史研究入門』研文出版, 1992年2月, 1-467ページ(山根幸夫・藤井昇三・中村義・太田勝洪編, 山根幸夫・中塚明・井上裕正・中村義・藤井昇三・臼井勝美・安藤正士・若林正丈・石島紀之・太田勝洪との共著, 第6章「『満州国』」(229-75ページ)を分担, 中国語訳本が『近代日中関係史研究入門』(国際視野叢書⑬)(周啓乾監訳, 台湾台北・金禾出版, 1995年6月, 1-488ページ, 分担章(239-87ページ), 増補版が『増補 近代日中関係史研究入門』研文出版, 1996年4月, 1-519ページ, 分担章の増補(497-503ページ))
- 8 『日本帝国主義史3—第二次大戦期—』東京大学出版会, 1994年12月, 1-490ページ(大石嘉一郎編, 大石嘉一郎・石井寛治・原朗・伊藤正直・高村直助・武田晴人・西成田豊・清水洋二・西田美昭・金子文夫・中村政則との共著, 第4章「軍需産業」(153-207ページ)を分担)
- 9 『1940年代の東アジア—文献解題—』(文献解題39)アジア経済研究所, 1997年5月, 1-361ページ(井村哲郎編, 檜山幸夫・井村哲郎・大西裕・浜口裕子・並木真人・小林英夫・須永徳武・石剛との共著, 「韓国所在の朝鮮総督府文書」(13-29ページ), 「閉鎖機関について—『閉鎖機関とその特殊清算』を中心に—」(335-49ページ)を分担, 後者の分担部分が閉鎖機関整理委員会編『閉鎖機関とその特殊清算 資料編』(復刻版, クレス出版, 2000年6月)に再録)
- 10 『日本経済史2 産業革命期』東京大学出版会, 2000年12月, 1-360ページ(石井寛治・原朗・武田晴人編, 神山恒雄・佐藤政則・花井俊介・萩原正浩・山口由等・鈴木淳・中村尚史・荻野喜弘・鈴木正幸・大門正克との共著, 第1章「貿易の拡大と資本の輸出入」(1-59ページ)を分担)
- 11 『深まる侵略 屈折する抵抗—1930年-1940年代の日・中のはざま—』研文出版, 2001年11月, 1-309ページ(宇野重昭編, 宇野重昭・金子文夫・柴田善雅・太田勝洪・竹中憲一・安藤彦太郎・岸陽子・紅野敏郎との共著, 4「日中戦争下の東南アジア華僑」(103-36ページ)を分担)
- 12 『心学先哲叢集』東京経済大学, 2010年7月, 1-239ページ(同大学史料委員会編, 石井寛治・奥山正司・加藤敦子・高井良健一・丸本操・吉井博明との共編, 「刊行にあたって」(iiiページ), 「大倉喜八郎」(239ページ)を執筆)

- 13 『稿本 大倉喜八郎年譜』東京経済大学, 2010年10月, 1-248ページ(同大学史料委員会編, 編集代表として石井寛治・奥山正司・加藤敦子・坂本寛・高井良健一・丸本操・吉井博明との共編, 「刊行にあたって」(2ページ), 「あとがき」(248ページ)を執筆, 同書増補版(2011年1月, 1-268ページ, 「増補版の刊行にあたって」(3ページ), 「あとがき」(268ページ)を執筆, 同書第3版(2012年3月, 1-348ページ, 「第3版の刊行にあたって」(3ページ), 「あとがき」(348ページ)を執筆)
- 14 『中国雲南の開発と環境』日本経済評論社, 2013年2月, 1-328ページ(松本光太郎と共編, 磯野弥生・手塚眞・堺憲一・橋谷弘・松本光太郎・劉剛との共著, 図表(viii~ixページ), 「序文」(1-11ページ), 第6章「ある少数民族農民のオーラルヒストリー」(213-78ページ), 「索引」(321-8ページ)を分担)

2. 論文

- 1 「戦時下における電力統制の展開—日本における電力国家管理の研究—」(東京大学大学院経済学研究科修士論文, 1966年12月, 未発表)
- 2 「ドル危機と構造改革—富塚氏への若干の疑問点—」『現代の理論』53号, 1968年6月, 22-32ページ
- 3 「後進諸国における問題—帝国主義と第三世界の一断面—」『現代の理論』55号, 1968年8月, 37-43ページ
- 4 「第一銀行朝鮮支店と植民地金融」『土地制度史学』第61号, 1973年10月, 43-56ページ(ハンゲル訳本『日帝下韓国社会構成体論』(韓国ソウル・チョンア出版社, 1986年8月)に再録(179-208ページ))
- 5 「植民地金吸収と日本産業革命」『東京大学経済学研究』第16号, 1973年12月, 40-53ページ
- 6 「大倉財閥の研究(1)」『東京経学会誌』第94号, 1976年1月, 33-135ページ(渡辺渡・中村青志・池上和夫・金子文夫との共著, Ⅲ「本溪湖煤鉄公司发展の概要(1)」(76-111ページ)を分担)
- 7 「大倉財閥の研究(2)」『東京経学会誌』第95号, 1976年3月, 31-182ページ(森久男・奈倉文二・窪田宏との共著, Ⅱ—Ⅱ「本溪湖煤鉄公司发展の概要(2)」(79-105ページ)を分担)
- 8 「大倉財閥の研究(3)」『東京経学会誌』第101号, 1977年5月, 57-206ページ(渡辺渡・池上和夫・金子文夫との共著, 「はじめに」(57-61ページ)を分担)
- 9 「日本帝国主義と植民地」石井寛治・海野福寿・中村政則編『近代日本経済史を学ぶ(上) 明治』有斐閣, 1977年10月, 176-94ページ
- 10 「日本綿業と朝鮮綿製品市場」逆井孝仁・保志恂・関口尚志・石井寛治編『日本資本主

- 義一展開と論理一』（安藤良雄教授還暦記念）東京大学出版会，1978年2月，119-36 ページ
- 11 「大倉財閥の研究（7）」『東京経学会誌』第114号，1979年12月，211-92 ページ（須田喜俊との共著，Ⅶ—I「本溪湖煤鉄公司発展の概要（3）」（211-65 ページ）を分担）
 - 12 「日本資本主義と植民地」「満州開発五カ年計画と鉄鋼業」森田桐郎・本山美彦編『世界経済論を学ぶ』有斐閣，1980年3月，265-79，280 ページ
 - 13 「植民地期朝鮮社会経済の統計的研究（1）」『東京経学会誌』第136号，1984年6月，1-101 ページ（富田晶子・橋谷弘・並木真人との共著，1「連載をはじめるとあたって」（2-7 ページ）を分担）
 - 14 「日本資本主義と植民地」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』（社会経済史学会創立50周年記念）有斐閣，1984年9月，193-200 ページ（柳沢遊・岡部牧夫編『展望日本歴史20 帝国主義と植民地』（東京堂出版，2001年2月）に再録（38-45 ページ））
 - 15 「日本帝国主義と軍部」歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本歴史8 近代2』東京大学出版会，1985年6月，167-202 ページ
 - 16 「長江流域における日本利権—南潯鉄路借款をめぐる政治経済史—」安藤彦太郎編『近代日本と中国—日中関係史論集—』汲古書院，1989年3月，127-64 ページ
 - 17 「近代化と少数民族社会の対応—中国雲南少数民族社会の近代化と伝統的文化—」『東京経学会誌』第164号，1990年1月，69-113 ページ（黄惠焜・山本英治・横山廣子・大林太良との共著，「はじめに」（69-70 ページ），Ⅱ「経済近代化と少数民族社会の変容」（78-89 ページ）を分担）
 - 18 「産業革命初期の日中貿易—日清貿易研究所に関連して—」『東京経学会誌』第174号，1992年1月，63-95 ページ（学術文献刊行会編・刊『日本史学年次別論文集 近現代1 1992年（平成4）』に再録（607-23 ページ））
 - 19 「矢内原忠雄における植民論と植民政策」大江志乃夫・浅田喬二・三谷太一郎・後藤乾一・小林英夫・高崎宗司・若林正丈・川村湊編『近代日本と植民地4 統合と支配の論理』岩波書店，1993年3月，205-37 ページ
 - 20 「植民地期朝鮮社会経済の統計的研究（5）」『東京経学会誌』第185号，1994年1月，145-56 ページ（松本武祝・橋谷弘との共著，12「再開にあたって」（145-6 ページ）を分担）
 - 21 「シーサンパンナにおける開発と保護をめぐる—1995年度調査報告—」『東京経学会誌』第199号，1996年10月，15-70 ページ（松本光太郎・廣井敏男・荻原弘次・橋谷弘・磯野弥生との共著，「はじめに」（16-8 ページ），第3章1「チヌオ族の概況」（38 ページ），2「チヌオ族農民から見た場合（38-42 ページ），第4章1「ゴム農場の

- 現状」(49-52 ページ), 第6章1「昆明生態研究所と生態系保護の現状」(60-2 ページ)を分担)
- 22 「中国経済改革下の山地少数民族」石原享一・内田知行・篠田隆・田島俊雄編『途上国の経済発展と社会変動』(小島麗逸教授還暦記念)緑蔭書房, 1997年10月, 277-98 ページ
- 23 「中国雲南における観光開発と環境問題—1996年度調査報告(1)—」『東京経学会誌』第205号, 1997年12月, 79-139 ページ(磯野弥生・手塚眞・橋谷弘・松本光太郎との共著, 「はじめに」(79-81 ページ), 第2章「序」(94-5 ページ), 1「チヌオ族農民の経営状況」(95-9 ページ)を分担, 『中国関係論説資料』第41号第4分冊下(論説資料保存会, 2001年2月)に再録(275-304 ページ))
- 24 「中国雲南における観光開発と経済発展—1997年度調査報告—」『東京経学会誌』第213号, 1999年8月, 67-132 ページ(橋谷弘・手塚眞・松本光太郎・磯野弥生・堺憲一との共著, 「序章」(67-75 ページ)を分担)
- 25 「中国雲南における環境行政と観光開発—1998年度調査報告—」『東京経学会誌』第231号, 2002年9月, 87-120 ページ(松本光太郎・磯野弥生・手塚眞・橋谷弘との共著, 「はじめに」(松本光太郎との共著, 87-8 ページ), 3(2)「チヌオ山のある農家の定点調査」(104-8 ページ), 3(3)「西双版纳百果洲天然食品公司での聞き取り」(108~10 ページ)を分担)
- 26 「長江は第一線にして, 満蒙は最後の塹壕なり—宮地貫道の事跡について(その1)—」『東京経学会誌—経済学—』第259号, 2008年3月, 137-56 ページ(『中国関係論説資料』第50号第3分冊下(論説資料保存会, 2010年6月)に再録(170-9 ページ))
- 27 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」川西重忠編『アジアの精神にみる企業倫理—関羽はなぜ商売の神様なのか—』桜美林大学北東アジア総合研究所, 2010年7月, 146-91 ページ

3. 報告

- 1 「第一銀行朝鮮支店と日本産業革命」(朝鮮史研究会1月例会, 専修大学神田校舎, 1974年1月26日)『朝鮮史研究会会報』第35号, 1974年3月15日, 24-5 ページ
- 2 「日本産業革命期における植民地支配の経済過程」(歴史学研究会近代史部会, 神田・一橋講堂, 1974年12月7日)
- 3 「日本産業革命期における植民地支配の経済過程」(1975年度歴史学研究会大会, 中央大学, 1975年5月25日)『歴史学研究(別冊特集)歴史における民族の形成』1975年11月, 150-9 ページ
- 4 「東北中国を訪ねて」(朝鮮史研究会8月例会, 専修大学神田校舎, 1978年8月19日)

- 『朝鮮史研究会会報』第54号, 1979年8月31日, 12-4, 24ページ
- 5 「陸軍参謀本部の兵要地誌研究—『朝鮮地誌略』をめぐる—」(朝鮮史研究会近代史部会東西合同夏合宿, 鳳来寺山麓民宿村・寿々屋, 1979年8月22~24日)
 - 6 「戦前の『日中合弁』企業の実態と矛盾—本溪湖煤鉄公司を例として—」(中国東北地区中日関係史研究会第4回学術討論会, 中国大連市・空三軍招待所, 1984年9月11~16日)「戦前日本大倉財閥控制下的中国本溪湖煤鉄公司」(中国文, 趙連泰訳)中国齊齊哈爾師範学院報編輯部・東北地区中日関係史研究会編『中日関係史論集』下(『齊齊哈爾師範学院報・社会科学版』1985年度増刊)中国チチハル市・同学院, 1985年, 201-12ページ
 - 7 「中国の社会主義・民族問題と直面する問題」(同シンポジウム実行委員会・文化倶楽部共催シンポジウム「ベルリンの壁崩壊後の社会主義」, 東京経済大学, 1990年6月16日)
 - 8 「中国経済改革下の少数民族—雲南少数民族の現況—」(津田塾大学国際関係研究所, 同大学, 1991年7月9日)
 - 9 「『シーサンパンナ・モデル』の契機と可能性」(同シンポジウム組織委員会主催・国際シンポジウム「雲南少数民族の文化と近代化」, 上智大学, 1992年6月26~27日)『同報告趣旨』43-6ページ, 「中国・雲南の未来探る—国際シンポジウムから—」『読売新聞』(大阪版)1992年7月4日に要旨
 - 10 「経済近代化政策への山地民族の対応—中国雲南少数民族について—」(国立民族学博物館, 同館, 1993年7月23日)
 - 11 「大倉財閥史料と植民地史研究の課題」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所創立30周年記念国際学術セミナー, 日中友好会館大ホール, 1994年10月21~22日)
 - 12 「満州建国をめぐる国際情勢」(「満蒙開拓団」調査研究会主催シンポジウム「1996, いま, 再び『満蒙開拓団』を問う 母村と入植地から」, 飯田市公民館, 1996年11月22~24日)
 - 13 「横山廣子報告『観光を中心とする経済発展と文化—雲南省大理盆地の場合—』, S. アルチャーノフ報告『コーカサス高地少数民族における社会経済変化』へのコメント」(国立民族学博物館主催・文部省国際シンポジウム「民族の文化とその政治経済学—東アジアの少数民族を例として—」, 同館, 1997年2月13~16日)「民族文化の再構築と観光産業」横山廣子編『少数民族の文化と社会の動態—東アジアからの視点—』同館, 2004年3月, 219-22ページ
 - 14 「『世界システム論』と日本近代史」(歴史学研究会日本近代史サマーセミナー, 長野県・国民宿舎いろり荘, 1997年7月27~29日)

- 15 「日本植民地研究と『満洲国』」(シンポジウム「『満洲』と『満洲移民』」, ホテルコンコルド浜松, 2002年8月12日)
- 16 「東アジア共同体への道」(東京経済大学・中国対外経済貿易大学交流20周年記念シンポジウム, 北京市・同大学, 2005年9月19日)
- 17 「東アジアの平和構築への寄与のために」(国際シンポジウム「大学交流・学生交流と東アジアの平和構築」, 東京経済大学, 2006年11月25日)
- 18 「満鉄調査活動に関する研究へのコメント」「井村哲郎氏の関連研究業績」(第18回近現代東北アジア地域史研究会大会, 新潟大学, 2008年12月6日)『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第21号, 2009年12月, 135-42, 143-7 ページ
- 19 「日韓関係の過去100年を回顧する」(韓国東北亜歴史財団主催・韓日オピニオンリーダーによるシンポジウム「韓日関係の過去と未来 100年の省察と展望」, 韓国ソウル・ロッテホテル, 2010年7月27日)同財団編『韓日関係の過去と未来 100年の省察と展望』同財団, 2010年7月, 25-30 ページ(ハングル), 31-6 ページ(日本語), 韓国『中央日報』(ハングル)2010年7月28日に要旨
- 20 「大倉喜八郎年譜, 櫻井義之・四方博の両朝鮮コレクション」(第11回植民地関係資料に関するワークショップ, 日本大学文理学部, 2011年9月30日~10月1日)
- 21 「大倉喜八郎の大陸事業と公共・公益の精神」(2013年度「後藤新平の会」シンポジウム「後藤新平と5人の実業家—公共・公益の精神—」, 日本プレスセンタービル, 2013年7月13日)

4. 書評

- 1 「東京大学社会科学研究所編『倉敷紡績の資本蓄積と大原家の土地所有』第1部・第2部(社会科学研究所調査報告第11, 12集)」東京大学『社会科学研究』第24巻第4号, 1971年3月, 180-7 ページ
- 2 「小林英夫著『「大東亜共栄圏」の形成と崩壊』』『読売新聞』1976年2月2日
- 3 「梶村秀樹著『朝鮮における資本主義の形成と展開』』神奈川大学『経済貿易研究』第5号, 1978年1月, 79-90 ページ
- 4 「高嶋雅明著『朝鮮における植民地金融史の研究』』『社会経済史学』第44巻第5号, 1979年3月, 86-9 ページ
- 5 「(高村直助著『日本資本主義史論』)資本の論理に徹した発展史像—講座派・宇野派をこえた後進資本主義把握の試み—」『日本読書新聞』第2068号, 1980年8月4日
- 6 「東京大学経済学部付属日本産業経済研究施設伝記資料目録編集委員会編『近代日本経済人伝記資料目録』』『ドキュメンテーション研究』第31巻第5号, 1981年5月, 226-7 ページ

- 7 「小野一一郎・吉信肅編『両大戦間期のアジアと日本』『世界経済評論』第24巻11号, 1981年11月, 87-9ページ
- 8 「朝鮮銀行史研究会編『朝鮮銀行史』」アジア経済研究所『アジア経済』第29巻第11号, 1988年11月, 89-92ページ
- 9 「藤井光男著『戦間期日本繊維産業海外進出史の研究』『経営史学』第25巻第2号, 1990年7月, 73-7ページ
- 10 「松本俊郎著『侵略と開発—日本資本主義と中国植民地化—』『社会経済史学』第57巻第2号, 1992年1月, 122-5ページ
- 11 「中村哲・堀和生・安秉直・金泳鎬編『朝鮮近代の歴史像』『社会経済史学』第57巻第2号, 1992年1月, 128-31ページ
- 12 「(小林英夫著『日本軍政下のアジア—「大東亜共栄圏」と軍票—』) 軍票を軸に太平洋戦争を解く』『エコノミスト』第72巻第9号, 1994年2月22日, 105-6ページ
- 13 「(古厩忠夫編『東北アジア史の再発見』) 国際交流の変遷探る』『新潟日報』1994年8月7日
- 14 「(砂川幸雄著『大倉喜八郎の豪快なる生涯』) 調査重ねて名誉回復』『新潟日報』1996年7月21日
- 15 「(小林英夫著『日中戦争—殲滅戦から消耗戦へ—』) 日本人の戦略や特性は変わっていないと警告』『週刊東洋経済』第6101号, 2007年9月22日, 134ページ
- 16 「(小林英夫・福井紳一著『論戦「満洲国」・満鉄調査部事件—学問的論争の深まりを期して—』) 植民地での日本人知識人のあり様をどう捉え返すのか, 満鉄調査部事件をめぐる論戦の今後の可能性について』『図書新聞』第3042号, 2011年12月17日

5. 解説・解題, 序文, 学会動向, 回顧と展望, 史資料紹介, 新刊紹介・推薦

- 1 「日本近代 三』『史学雑誌』第83編第5号(1973年の歴史学界—回顧と展望—), 1974年5月, 147-53ページ
- 2 「(新刊紹介) 歴史科学協議会編『帝国主義(歴史科学大系11)』』『史学雑誌』第84編第11号, 1975年11月, 92-3ページ
- 3 「紹介 桜井文庫』『東京経済大学報』第8巻第5号, 1975年12月1日, 5ページ(「東京経済大学図書館所蔵 桜井義之文庫目録—朝鮮関係文献—』『東京経大会誌』第96号(1976年7月)に再録(260-1ページ))
- 4 「日本経済史研究の焦点』『経済評論』第28巻第12号(79年の経済学—成果と展望—), 1979年12月, 96-109ページ
- 5 「解説 隣邦軍事密偵と兵要地誌』陸軍参謀本部編・村上勝彦解題『朝鮮地誌略1(全2巻)—京畿道・忠清道・咸鏡道』(復刻版)龍溪書舎, 1981年10月, 1-48ページ

- 6 「小堀家文書の調査報告」東京経済大学図書館編『小堀家文書目録』同館, 1985年10月, 2-7 ページ
- 7 「日本株式会社 情報戦力の始まり 系統だった詳細さに驚き 大きな資料価値」(復刻版『通商彙纂』の今日性)『図書新聞』第594号, 1988年5月28日
- 8 「(推薦『外務省通商局編纂 通商彙纂』(復刻版)不二出版) 近代経済史研究に必須の一級資料」同出版, 1988年5月
- 9 「小堀家文書の追跡調査」『日本歴史』第494号, 1989年7月, 38-42 ページ
- 10 「解説 凌星光著『現代資本主義の再認識—“社会資本主義”としての現代資本主義—(1)~(3)』」『経済評論』第38巻第10号, 1989年8月, 14-5 ページ
- 11 「(新刊紹介) 浅田喬二著『日本植民地研究史論』」『史学雑誌』第100編第1号, 1991年1月, 123-4 ページ
- 12 「解題」東京経済大学図書館編『桜井義之文庫目録』同館, 1992年10月, v-x iii ページ
- 13 「復刻にあたって」櫻井義之著『明治と朝鮮』(復刻版)龍溪書舎, 1995年11月, 1-2 ページ
- 14 「(推薦『通商公報〔第Ⅰ期〕』『同〔第Ⅱ期〕』(復刻版)不二出版) 転換期日本の世界的地位を照射」同出版, 1997年5月, 1999年11月
- 15 「(推薦『閉鎖機関とその特殊清算』(復刻版)クレス出版)『閉鎖機関とその特殊清算』の刊行に寄せて」同出版, 2000年5月
- 16 「(推薦『在満』日本人用教科書集成 全10巻』柏書房) 植民者像の豊富化のために」同書房, 2000年11月
- 17 「(推薦『社史で見る日本経済史 植民地編 全35巻』ゆまに書房) 植民地研究の基本資料」同書房, 2002年5月
- 18 「序文 斬新な視角のもつ魅力」范力著『中日“戦争交流”研究—戦時期の華北経済を中心に—』汲古書院, 2002年12月, 1-4 ページ
- 19 「(推薦『外邦測量沿革史 草稿(全4冊・別冊1)』(復刻版)不二出版) 新たに発掘された豊富な歴史資料—近代日本のアジア関係史にとって—」同出版, 2008年6月

6. 事典・辞典, 新聞・雑誌寄稿, 翻訳

- 1 「(翻訳) トム・ネイルン著『労働党帝国主義』(『ニューレフト・レビュー』32号)」『現代の理論』46号, 1967年11月, 55-67 ページ
- 2 「ドル危機と日本資本主義—七十年単純危機説に反論する—」『慶應義塾新聞』第115号, 1969年1月1日
- 3 「40 朝鮮問題」「79 京仁・京釜鉄道建設」「82 日清戦後の朝鮮問題」「102 朝鮮併

- 合] 大石嘉一郎・宮本憲一編『日本資本主義発達史の基礎知識—成立・発展・没落の軌跡—』有斐閣, 1975年11月, 99-100, 203-4, 209-11, 267-8 ページ
- 4 「そのとき日本は…(上) 中小企業や農家に打撃」「同…(下) 娘の身売り社会問題に」『日本経済新聞』1979年10月24日, 27日
- 5 「居留地」「京仁鉄道」「京釜鉄道」「朝鮮会社令」「朝鮮貨幣整理事業」「朝鮮銀行」「朝鮮産米増殖計画」「朝鮮殖産銀行」「朝鮮土地調査事業」「東洋拓殖株式会社」「本溪」「目賀田種太郎」『大百科事典』4, 9, 10, 13, 14巻, 平凡社, 1984年11月~1985年3月, 4巻442, 1182, 1216 ページ, 9巻1000-1, 1003-4, 1008 ページ, 10巻719 ページ, 13巻1216 ページ, 14巻758 ページ(「本溪」以外の全項目は, 項目名を「会社令」「貨幣整理事業」「産米増殖計画」「土地調査事業」と略して, 伊藤巫人ほか監修『朝鮮を知る事典』(平凡社, 1986年3月)に再録(31, 45-6, 76, 104, 174, 280-1, 287, 320, 325, 413-4 ページ), その改訂版の『新版 韓国・朝鮮を知る事典』(2014年1月刊行予定)で「京仁鉄道」「京釜鉄道」項目を改訂)
- 6 「NIESの発展と植民地支配」(東京経済大学サンデー誌上セミナー第8回)『サンデー毎日』1991年1月27日
- 7 「日本植民地史上における『満洲』 過大な試みで戦争へ」(シリーズ「満蒙開拓を問う」4)『信濃毎日新聞』1995年8月5日
- 8 「日中共同で掘りおこす『満洲移民』」『世界』第614号, 1995年10月, 232-3 ページ
- 9 「日本帝国主義の形成」鳥海靖・松尾正人・小風秀雅編『日本近現代史研究事典』東京堂出版, 1999年8月, 239-243 ページ
- 10 「鞍山製鉄所」「安奉線問題」「東清鉄道」「日満支経済ブロック」「撫順炭鉱」「満州産業開発五か年計画」「満州重工業開発会社」「満鉄調査部」「満鉄調査部事件」「満鉄付属地」「満鉄併行線問題」「南満州鉄道会社」「山本条太郎」朝尾直弘ほか編『日本歴史大事典』1, 3巻, 小学館, 2000年7月, 2001年3月, 1巻118, 125 ページ, 3巻34, 237, 548-9, 785-8, 824, 995 ページ
- 11 「大倉喜七郎」「大倉財閥」「大倉農場」「門野重九郎」吉田裕・森武磨・伊香俊哉・高岡裕之編『アジア・太平洋戦争辞典』吉川弘文館, 2015年刊行予定

7. 随筆, コラム, その他

- 1 「ランゲと労働者自治」『現代の理論』38号, 1967年3月, 68-9 ページ
- 2 「大会参加記(朝鮮史研究会第11回大会)」『朝鮮史研究会会報』第38号, 1974年12月, 6-7 ページ
- 3 「韓国への旅」東京経済大学教職員組合『輪』第117号, 1982年5月, 17-8 ページ
- 4 「九年ぶりの韓国」東京経済大学教職員組合『輪』第118号, 1982年9月, 11-2 ページ

ジ

- 5 『『単位主義社会』の是非をめぐって』霞山会『東亜』No.254, 1988年8月, 4-6 ページ
- 6 「中国での大倉財閥研究」本溪湖会「太子河」編集委員会編『太子河—満州本溪湖100年の流れ—』本溪湖会, 1992年11月, 361 ページ
- 7 「会員の総力を結集した意義ある貴重な記録集」太子河・編集委員会編『太子河拾遺』本溪湖会, 1993年4月, 1 ページ
- 8 「中国東北を訪ねて」『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第8号, 1996年12月, 1-2 ページ
- 9 「本溪湖と私」本溪湖会編『本溪湖物語—南満州本溪湖の記録—』(同会結成30周年記念出版) 同会事務局, 2002年12月, 220-3 ページ
- 10 「多摩アカデミック・コンソーシアムについて」『IDE』第455号, 2003年12月, 36-40 ページ
- 11 「大学と地域」『大学時報』第297号, 2004年7月, 9 ページ
- 12 「故今村仁司教授の思い出」『東京経済学会誌—経済学—』第259号, 2008年3月, 23-4 ページ
- 13 「小さな研究会の大きな役割」『大学時報』第323号, 2008年11月, 60-1 ページ
- 14 「建学の精神, 大学の理念に沿っての教学改革」(私の私学考285)『私学経営』No.411, 一般社団法人私学経営研究会, 2009年5月, 4-9 ページ
- 15 「はげ」『大学時報』第334号, 2010年9月, 64-5 ページ
- 16 「近現代東北アジア地域史への関心」『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第22号, 2010年12月, 11-4 ページ
- 17 「建学の精神に沿って」(シリーズ:我が大学史の一場面—日本の近代化と大学の歴史—)『大学時報』第340号, 2011年9月, 96-101 ページ
- 18 「中国同盟会成立記念講演会について」『近現代東北アジア地域史研究会ニューズレター』第23号, 2011年12月, 57-61 ページ
- 19 「地球市民としての瀧本さん」東京経済大学大学院経済学研究科編『記念文集 中国・雲南への架け橋—瀧本良吉氏と五人の学生たち—』同研究科, 2012年4月, 6-7 ページ
- 20 「ふたりの大アジア主義者—後藤新平と大倉喜八郎—」藤原書店『機』No.258, 2013年9月, 18-9 ページ

8. 対談・座談, インタビュー

- 1 「大倉財閥研究会座談会 資料発掘から財閥論へ」(池上和夫・金子文夫・窪田宏・中

村上勝彦教授年譜ならびに主な業績目録

- 村青志・渡辺渡氏との座談，葵友会本部，1980年3月8日）『東京経済大学報』第13巻第1号，1980年4月，1-8ページ
- 2 「大倉喜八郎と大倉製糸工場について」（NHK新潟放送局のインタビュー，村上研究室，1983年）同局，1983年度下半期放映「（ニュースワイド新潟）越佐の年輪—裸一貫，新発田をあとに 大倉喜八郎とふるさと」，同局番組制作班編『放送記録 越佐の年輪』同局，1985年，5ページ
 - 3 「日本における日本近代経済史研究の動向と私の研究軌跡」（中国中南财经大学経済史研究者との座談，武漢市・同大学，1986年12月23日）
 - 4 「中国対外経済貿易大学での教育・研究・生活」（東京経済大学国際交流委員会主催「村上・劉両先生を囲んで日中交流報告座談会」，同大学，1987年5月13日）
 - 5 「明治の隣邦密偵について」（NHK教養番組センターのインタビュー，村上研究室，1987年8月25日）NHK総合テレビ，1987年11月5日放映「地図は国家なり」
 - 6 「旅のなかで考える一人・文化・民族—」（色川大吉氏との対談，東京経済大学，1987年12月16日）『東京経済大学報』第21巻第1号，1988年4月，1-8ページ
 - 7 「雲南少数民族の調査研究について」（『新交流』紙のインタビュー，東京経堂・弘華楼，1992年6月20日）「超越自我方能出人頭地」月刊『新交流 NEW COM』（中国文）14号，1992年8月25日，11ページ
 - 8 「中国での研究のあり方について」（馬興国氏と対談，1995年8月1日）「日中学者対談 中国的日本研究雑誌」馬興国・崔新京主編『中国的日本研究雑誌 歴史回顧与展望』（中国文）遼寧大学出版社，1995年9月，313-20ページ
 - 9 「大倉喜八郎の大陸事業について」（テレビ新潟放送網のインタビュー，1997年11月14日）テレビ新潟，1998年1月9日放映「やがてなりたき男一匹—大倉喜八郎，その豪快なる人生—」
 - 10 「中国の単位主義社会について」（唐人報社のインタビュー，村上研究室，1999年11月26日）「“単位主義” 国家—中国」『唐人報』（中国文）1999年12月4日
 - 11 「大倉喜八郎・大倉喜七郎の人となり」（泉放送制作のインタビュー，村上研究室，2003年10月9日）テレビ新潟，2003年11月1日放映「大倉喜八郎・大倉喜七郎の豪快なる人生—感涙の桜 大倉集古館コレクション—」
 - 12 「一歩先へ。チャレンジできる人事育成に賭ける」（メリルリンチ日本証券社長小林いずみ氏との対談，同社，2007年6月29日）『日経産業新聞』2007年7月27日
 - 13 「大倉喜八郎関係書籍の刊行について」（『東京経済』のインタビュー，2010年8月31日）「創立110周年記念 『大倉喜八郎撰 心学先哲叢集』の刊行と『稿本 大倉喜八郎年譜』の編纂に際して 村上理事長に聞く」『東京経済』第334号，2010年10月，12-3ページ

- 14 「大倉喜八郎の辛亥革命支援について」(中国北京市『三聯生活週刊』のインタビュー, 東京経済大学, 2011年9月15日)「(対面故事・孫中山) 財閥」『三聯生活週刊』(中国文) 2011年第40期, 同年10月3日, 84ページ
- 15 「創立者の理念」(朝日新聞出版のインタビュー, 東京経済大学, 2011年7月12日)『週刊朝日進学MOOK 2012』同出版, 2011年10月, 25ページ
- 16 「創業者大倉喜八郎に学ぶ, 大成スピリット」(大成建設株式会社のインタビュー, 東京経済大学, 2012年11月9日)同社社内報『たいせい』2013年新春特別号, 2013年1月, 6-9ページ
- 17 「経済人としての大倉喜八郎とその精神の学生への継承について」(三田村邦彦氏との対談, 村上研究室, 2013年2月18日)テレビ新潟21, 2013年3月2日放映「われ, 頓着せず〜大倉喜八郎 近代日本の商人魂」
- 18 「大倉喜八郎・大倉喜七郎の赤石岳登頂について」(NHK制作局のインタビュー, 2013年2月5日)NHK・BSプレミアム, 2013年3月30日放映「ムカシネマ」

9. 講座・研修講話, レクチャー

- 1 「中国の辺境を行く一旅に出て中国の民族と歴史を考える一」(第6回国分寺市民大学講座, 東京経済大学, 1987年11月21日)国分寺市教育委員会・東京経済大学編『第6回 市民大学テキスト・一般コース』同委員会・同大学, 1987年10月, 87-96ページ
- 2 「中国少数民族の現在—近代化と民族社会の変容—」(第8回国分寺市民大学講座, 東京経済大学, 1989年10月7日)
- 3 「日本経済の現局面」(東京経済大学・中国対外経済貿易大学の国際大学交流セミナー, 東京経済大学, 1990年7月18日)
- 4 「日本のマルクス経済学」(中国対外経済貿易大学訪日団引率教員へのレクチャー, 東京経済大学, 1990年7月27日)
- 5 「戦争でたどる明治日本」(朝日カルチャーセンター, 新宿住友ビル, 1992年8月20日)
- 6 「日本経済の歩み」(1992年度国分寺市貫井南分館成人大学講座, 同館, 1993年1月18日)
- 7 「日本経済とアジア」(1992年度国分寺市貫井南分館成人大学講座, 同館, 1993年1月20日)
- 8 「発熱アジアと日本経済」(第1回葵友会オープンカレッジ, 日産銀座ギャラリー, 1995年6月14日)『東京経済大学報』第28巻第2号, 1995年7月, 2-5ページ
- 9 「大倉喜八郎・その豪快なる人生」(第4回葵友会オープンカレッジ, 八重洲富士屋ホ

テル, 2000年10月25日)

- 10 「高等教育の20年と展望」(第20回国分寺市民大学講座, 東京経済大学, 2001年12月15日)
- 11 「日本の大学制度について」(中国雲南省教育庁・雲南大学・雲南民族大学・雲南芸術学院・西南林学院・雲南師範大学・大理学院訪日団へのレクチャー, 東京経済大学, 2006年1月23日, 2月13日, 3月29日, 5月10日, 6月19日, 7月24日)
- 12 「近代日本経済の野性的な担い手—本学創立者, 大倉喜八郎の人となり—」(第25回国分寺市民大学講座, 東京経済大学, 2006年9月16日)
- 13 「大倉財閥資料について」(東京経済大学図書館研修会, 同大学, 2007年2月28日)
- 14 「本学創立者・大倉喜八郎の豪快な生涯—『進一層』, 『責任と信用』の由来—」(東京経済大学職員研修会, 同大学, 2008年8月1日, 9月18日)
- 15 「北東アジア経済圏構想の現在」(北海商科大学北東アジア研究センター公開講座, 札幌市・同大学, 2008年11月1日)
- 16 「大倉喜八郎の豪快な生涯—『進一層』, 『責任と信用』の由来—」(葵友会東北信支部, 佐久市・磊庵, 2009年7月11日)

10. 講演

- 1 「大倉財閥の資料について」(第35回経済資料協議会全国総会, 東京経済大学, 1980年3月8日)
- 2 「韓国と日本産業革命」(韓国研究院・研究会, 三田・NKビル, 1982年8月27日)
- 3 「戦後の日本経済」(中国北京外国語師範学院, 同学院, 1985年5月26日)
- 4 「日本経済の光と影」(中国延辺大学, 延辺朝鮮族自治州・同大学, 1985年6月27日)
- 5 「日本帝国主義史研究の若干の問題点—日本資本主義との関連を中心に—」(中国吉林大学日本研究所, 長春市・同所, 1986年7月3日)
- 6 「日本経済“高速増長時代”」(中国復旦大学歴史学部, 上海市・同大学, 1986年11月25日)
- 7 「中国と日本の研究・教育体制の比較—中国滞在2年半の感想—」(中国復旦大学世界経済研究所, 同所, 1987年2月15日)
- 8 「關於日本在旧中国投資」(中国上海市経済史学会創立大会, 1987年3月14日)
- 9 「大倉財閥の特徴について」(大倉喜八郎の会結成総会, 新発田市・志ま屋, 1997年9月27日)
- 10 「最近の大学生と大学の対応」(東京井の頭ロータリークラブ, 井の頭・ホテルベルモント, 2000年6月12日)
- 11 「東京経済大学の歴史を振り返って新世紀の大学に期待すること」(同大学創立100周

- 年記念学術行事・リレー講演会「新世紀の大学 夢を語り合おう 夢を実現しよう」,
同大学, 2000年10月7日)
- 12 「近代日本の商権と華僑」(葵友会東京西支部, 日野市・えびな, 2001年6月2日)
 - 13 「少子化と私立大学の将来像—東京経済大学の場合—」(葵友会神奈川県央支部, 伊勢丹相模大野店, 2001年7月1日)
 - 14 「少子化と私立大学の将来像—東京経済大学の場合—」(葵友会西湘葵会, 大磯プリンスホテル, 2001年7月28日)
 - 15 「日本の中小企業の改革と国際競争力」(VJCC-HCMC 開所記念特別セミナー, ベトナム日本人材協力センター・ホーチミン市センター, 2002年5月11日)
 - 16 「アジア経済と華僑」(葵友会東京西支部, 京王プラザホテル八王子, 2003年2月1日, 『東京経済』第292号(2003年5月)に要旨(23ページ))
 - 17 「大倉喜八郎と大倉財閥」(櫻友会2003年度6月学習会, 東京経済大学, 2003年6月21日)
 - 18 「東アジアにおける日本経済史」(大阪経済大学日本経済史研究所開所70周年記念・第5回寺子屋「史料が語る経済史」, 同大学, 2003年7月26日)
 - 19 「大倉喜八郎と大倉財閥」(葵友会新潟県支部創立50周年記念講演会, ホテルオークラ新潟, 2003年9月20日, 『東京経済』第295号(2003年11月)に要旨(4-6ページ))
 - 20 「アジア, 中国の経済状況」(葵友会東京西支部, 京王プラザホテル八王子, 2004年1月24日)
 - 21 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(葵友会静岡県支部主催講演会, 静岡市・ブケ東海, 2004年7月17日, 『東京経済』第300号(2004年9月)に要旨(4-6ページ))
 - 22 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(大成建設株式会社第1回外部講師講演会, 新宿センタービル・同社本社, 2004年11月4日, 『東京経済』第302号(2005年1月)に要旨(23ページ))
 - 23 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(葵友会武蔵野支部, 東京経済大学, 2005年2月5日, 『東京経済』第305号(2005年7月)に要旨(36ページ))
 - 24 「大倉喜八郎と大倉財閥」(葵友会茨城支部創立50周年記念講演会, 水戸三の丸ホテル, 2006年7月8日, 『東京経済』第312号(2006年9月)に要旨(14-5ページ))
 - 25 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(葵友会山口県支部創立80周年記念講演会, 下関市・春帆楼, 2006年8月5日, 『東京経済』第312号(2006年9月)に要旨(8-9ページ))
 - 26 「大倉喜八郎のベンチャー精神と事業観」(東京経済大学昭和42年卒業生40周年同期会, 東京経済大学, 2006年11月22日, 『東京経済』第315号(2007年3月)に要旨(18ページ))

- 27 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(葵友会中信支部創立 30 周年記念講演会, 松本市・M ウィング, 2007 年 2 月 17 日, 『東京経済』第 316 号(2007 年 5 月)に要旨(9 ページ), 松本市『市民タイムス』2007 年 2 月 18 日号に要旨)
- 28 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(桜美林大学北東アジア総合研究所月例懇話会, 新宿農協会館・同研究所, 2007 年 5 月 14 日)『北東アジア総合研究所 2007 年 6 月会報誌』2007 年 6 月, 1-22 ページ
- 29 「大倉喜八郎の事業観と経営理念」(葵友会神奈川西支部創立 40 周年記念総会, 茅ヶ崎駅ビル・ラスカサロン, 2007 年 7 月 22 日, 『東京経済』第 312 号(2007 年 11 月)に要旨(16-7 ページ))
- 30 「大倉喜八郎のベンチャー精神について」(東京経済大学昭和 32 年卒業生同期会, 新日鉄・代々木クラブ, 2007 年 10 月 2 日)
- 31 「大倉喜八郎のベンチャー精神と事業観」(大倉喜八郎の会創立 10 周年記念講演会, 新発田市・志ま屋, 2007 年 10 月 21 日)
- 32 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(東京経済大学第 12 回ホームカミングデー, 同大学, 2007 年 11 月 4 日)
- 33 「東京経済大学の理念と改革方向」(私学経営活性化協会・平成 20 年夏季特別講演会, 青山ナジックプラザセミナーホール, 2008 年 7 月 28 日)
- 34 「大倉喜八郎の豪快な生涯—『進一層』, 『責任と信用』の由来—」(依光会, 東京経済大学, 2008 年 10 月 4 日, 『東京経済』第 326 号(2009 年 1 月)に要旨(40 ページ))
- 35 「中国経済社会の抱える問題」(櫻友会 2009 年度 2 月学習会, 東京経済大学, 2009 年 2 月 28 日)
- 36 「大倉喜八郎の経営理念」(葵友会々々会, ホテルオークラ東京, 2009 年 6 月 6 日)
- 37 「大倉喜八郎の経営理念と海外事業」(葵友会東京西支部, 京王プラザホテル八王子, 2009 年 6 月 7 日)
- 38 「大倉喜八郎のチャレンジ精神」(東京経済大学「進一層」全国キャラバン経済講演会, 横浜エクセルホテル東急, 2009 年 6 月 27 日)
- 39 「大倉喜八郎の豪快な生涯—『進一層』, 『責任と信用』の由来—」(葵友会群馬支部, ホテルメトロポリタン高崎, 2009 年 6 月 28 日)
- 40 「大倉喜八郎のチャレンジ精神」(東京経済大学「進一層」全国キャラバン経済講演会, ホテルオークラ新潟, 2009 年 7 月 4 日)
- 41 「大倉喜八郎に見るベンチャー精神」(葵友会東京多摩支部主催・葵友会創立 100 周年記念学術大講演会, 立川グランドホテル, 2009 年 11 月 15 日, 『東京経済』第 332 号(2010 年 4 月)に要旨(27 ページ))
- 42 「大倉喜八郎翁にみるベンチャー精神」(葵友会埼玉中央支部, 所沢パークホテル,

2010年5月29日)

- 43 「大倉喜八郎と中国革命」(中国同盟会成立記念事業実行委員会主催「中国同盟会の成立と辛亥革命百周年」記念講演会, ホテルオークラ東京, 2011年8月20日)
- 44 「大倉喜八郎と中国」(大倉喜八郎の会講演会, 新発田市生涯学習センター, 2011年11月15日)
- 45 「大倉喜八郎と現代日本」(葵友会東北信支部創立70周年記念講演会, ホテルメトロポリタン長野, 2012年7月1日, 『東京経済』第342号(2012年10月)に要旨(7-8ページ))
- 46 「大倉喜八郎と現代日本」(葵友会川崎支部, 川崎さいか屋・煌蘭, 2012年10月27日)
- 47 「中国辛亥革命と大倉喜八郎」(大倉喜八郎の会設立15周年記念講演会, 新発田市生涯学習センター, 2012年11月3日)
- 48 「大倉喜八郎の類い稀なベンチャー精神」(大成建設株式会社創業140周年記念講演会, 新宿センタービル・同社本社, 2013年1月23日, 『東京経済』第344号(2013年4月)に要旨(13ページ), 以後, 同社6支店で講演(関西支店, 同支店ビル, 1月29日, 九州支店, 同支店ビル, 2月8日, 中国支店, 同支店ビル, 2月21日, 名古屋支店, 名古屋ルーセントタワー, 2月26日, 北信越支店, 新潟市・同支店ビル, 3月12日, 札幌支店, 同支店ビル, 3月15日)
- 49 「大倉喜八郎と現代日本」(村上勝彦教授退任記念講演会, 東京経済大学, 2013年3月9日, 『東京経済』第345号(2013年7月)に要旨(9ページ))
- 50 「大倉喜八郎のベンチャー精神」(葵友会熊本支部創立60周年記念講演会, 熊本テルサ, 2013年4月20日, 『東京経済』第345号(2013年7月)に要旨(38ページ))
- 51 「大倉喜八郎と中国」(葵友碌々会, ホテルオークラ東京, 2013年6月6日)
- 52 「新発田の生んだ偉人, 大倉喜八郎」(敬和学園大学アッセンブリーアワー講演会, 新発田市・同大学, 2013年6月28日)
- 53 「反骨の人, 砂川幸雄さん—『大倉喜八郎の豪快なる生涯』の著者—」(砂川幸雄さんを偲ぶ会, 新発田市生涯学習センター, 2013年6月29日)

注: 共著書は共同研究などによるもの, 報告と講座・研修講話と講演の区分はやや不定, 講演開催の月日・場所の不記載は資料紛失によって不明, 同一題目の講演でも内容が異なる場合がある。

(2013年11月5日記)

以上